

# 菊鹿愛

学校教育目標 (菊鹿小中学校)  
 「ふるさとを愛し、夢の実現に向けて  
 挑戦し続ける児童生徒の育成」  
 菊鹿小スローガン  
 ~学び合い 伝え合い 菊鹿愛~  
 文責 (校長 早田 宗生)

## 本校の学力充実対策

本年度も折り返しを過ぎ、充実の秋も深まり、県内でも雪の便りが届いています。学校では毎日、児童の元気な声が響き、楽しい授業が進んでいます。本年度も「授業で勝負」を合い言葉に、基本である授業を大切に、授業で児童に力を付けられるよう、授業研究会をしたり、取組の重点を定めたりするなどして授業の改善に努めています。併せて、放課後の「学びタイム」「習熟タイム」を使い、基礎的・基本的事項の徹底や、少人数による個に応じた指導をしています。

下の表は、各学年で重点と考え取り組んでいるもの(国語、算数のみ)です。家庭での話題にしてみてください。

	国 語	算 数
一 年	① ひらがな、カタカナの定着のために、学びタイムでミニテスト、再テストを行う。 ② 「語句の結びつき」を考えさせる。 ③ 文章に線を引いたり、矢印で結んだりする。文章題の答えの根拠となる文を考えさせる。	○ 表のどこに目を向けたらよいか、理由、数学的な見方を働かせる。
二 年	① 学びタイムで、漢字ミニテストを実施する。 ② キーワード等に線を引いたり、囲んだりさせる。 ③ 「聞く力」をドリル等で向上させていく。	○ 計算ミニテスト(2~3問)を実施する。
三 年	① 1学期からの漢字の復習を行う。 ② 文章を読んで答える問題に慣れさせる。ドリル「読む力」の活用(図や絵だけを見て解くことがあるため)	○ 学びタイム、家庭学習の中で、文章題プリントをする。 ・式が2つ以上ある問題 ・問題の意味を理解して立式する練習
四 年	① ミニテスト等による基礎基本の徹底 ② 国語辞典、漢字辞典で調べる習慣をつくる。 ③ 中心となる語句やキーワードに印を付けたり、線を引いたりする。(手本を示す)	① 計算問題の定着を図る。(特にわり算の筆算) ② 授業導入時に、既習語句や既習事項の確認をする。(掲示物として)
五 年	○ 漢字の読み書き、漢字小テストを実施する。	○ 文章題への取組(文と図と式を一致させる)をする。
六 年	① 家庭学習で漢字を練習させる。 ② 同意異義語の整理と復習をさせる	① 学びタイムを使って既習事項を確認する。 ② すき間時間を活用して、カード・タブレット学習をする。 ③ 図形の定義について復習する。

## 子育て四訓

- 1 乳児はしっかり肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ、手を離すな
- 3 少年は手を離せ、目を離すな
- 4 青年は目を離せ、心を離すな

子育てにマニュアルなしと言われる一方、いろんな教育書も出されています。教育評論家と言われる方も様々です。何かの拠りどころの一つに「子育て四訓」と言われるものがあります。山口県内の教育委員等をされた方の作とのことです。

小学校に入ると行動範囲も広がり、子どもだけの世界がでか始まります。仲の良い友達ができたり、友達とトラブルになったりすることもあるでしょう。ただ、少年期はまだまだ子どもです。やることも考えることもまだ幼いものです。友達との付き合いによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやる必要があります。ただ、いろんな危険があるので、しっかりと目だけは離さないようにしましょう。子どもの関心や交友関係を尊重し、ほどよい距離感を保つことが大切です。

自主性を育てると放任は紙一重です。自主性を育てるためには、保護者がきちんと主導権をもっておくこと、これが「目を離すな」ではないでしょうか。子どもの生活の確認をすること

などが必要でしょう。「いつも見ているよ」「守っているよ」「愛しているよ」のサイン・メッセージを伝えると共に、場に依じて、間違っている時、危険なことや、社会に反することなどは、親としてしっかりと叱ることが大切です。「だから、叱る」「だから、やめさせる」ことも必要です。

身の回りのことは自分ででき、自分の考えをしっかりともち、自分の力で行動できる子どもに育てるために、子どもたちのもっている可能性を信じたいですね。そのためにも、集団・社会で生きていく上で必要な礼儀や身のこなし、言葉の発しかたなどは教えていかなければなりません。

例えば、感謝の気持ちを育てる上では、周囲で「ありがとう」が聞こえることが必要でしょう。人の悪口を発したり、暴力的な言動が見られたりする環境では感謝の気持ちは育ちにくいでしょう。「ありがとう」「ごめんなさい」が言える人は立派だと思います。保護者同士のよい関係づくりも「目を離さない」ことに大切なことです。